

一期一会 ～思い出に残る研修旅行～

バンコク日本人学校（平成18年度派遣）
岡山中央小学校 村尾 剛介

1 はじめに

バンコク日本人学校では、毎年1回、夏季休業中に職員研修旅行が行われる。そこでの目玉は、何と云っても旅行先の学校での授業である。もちろん、タイの地元校なので、タイ語での授業となる。1学期末は成績処理に加えて、その授業の準備でにわかに忙しくなるが、なぜか心地よい忙しさなのである。

2 いざチェンライへ

3年目の2008年、訪れた場所はタイ北部の街チェンライであった。バンコクとは全く違うゆったりとした街の雰囲気癒される。そして、授業を行うサハサート・スクサート学校へ向かった。

1959年に設立されたこの学校は、一度は閉校になったのだが、その後タイ・スウェーデン・日本の援助により再び開かれることとなった。幼稚園・小学部・中学部・高校部が設置され、児童生徒数は2200人を数える大規模校である。特徴としてはうち80%が山岳少数民族（アカ・ラフ・カレン・リス・ヤオ・モン・タイヤイ・ラワ・ジン・カム・ワ・タイ）であることで、訪れた金曜日は、幸運にも週に1度の民族衣装の日だった。

私とパートナー（通常2～3人で授業）は日本文化を伝えるべく、「けん玉」を使った授業を行った。

けん玉の技を披露しながら、技の名前をクイズ形式で当てさせた。もちろんオールタイ語（+ジェスチャー）、必死になって汗が滴るのが分かる。技の一つ「もしかめ」で歌う童謡の「もしもしかめよ」も一緒に歌った。日本語を教え、歌の意味も伝えた。

印象的だったのは、授業後も休み時間を使って、技の向上を目指す生徒が数多くいたことである。対象は中学2、3年生だったことを考えると、日本では考えられない光景であった。しばらく、けん玉ブームが続くかもしれない。

3 オプション

2泊3日の行程が終了すると、希望者はオプションプログラムに参加することができる。私は、さらに北の山奥にある学校へ向かった。ここでは日本の歌「上を向いて歩こう」を、全く日本語に触れたことがない児童・生徒に対して教え、最後は大合唱で締めくくった。「この子たちとは、もう2度と会えないかもしれない」と考えた。でも、だからこそこの1回の出会いが輝くのだと思う。



民族衣装での歓迎行事



けん玉を使った授業（けん玉は寄贈）



全員で合唱「上を向いて歩こう」